

# 会議録

令和4年5月18日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和3年度第9回定例会
開催日時	令和4年2月16日(水) 18時30分から20時10分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、ギログリー江美(副会長)、荒井茂、谷関幸子、小須田厚子、海老澤裕恵、石川健、青木美紀子、渡部國夫、小沼純子、荒井容子、高井正 職員：高田館長、國府方館長補佐(田無分館長)、等々力分館長(芝久保)、三城分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、市川事業係主査、星野事業係主査
欠席者	中嶋太、三沢英俊、山本事業係長
議題	1 主催事業について (1) 令和3年度公民館主催事業報告について(資料1) 2 審議事項 (1) 令和3年度第7回定例会会議録(案)について(資料2) (2) 令和3年度第8回定例会会議録(案)について (3) 令和4年度公民館事業計画(案)について (4) 公民館事業評価(案)について 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和3年度東京都公民館連絡協議会委員研修について (2) 第10回定例会の開催について
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和3年度公民館主催事業報告書 資料2 令和3年度第7回定例会会議録(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(1名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
<p><b>1 主催事業について</b>  <b>(1) 令和3年度公民館主催事業報告(資料1)</b>  ○A委員  保谷駅前公民館配付の冊子(「人権講座 子どもの権利を考える」で作成)について。素晴らしい取り組み。これからも取り組んでほしい。高校生から大学生という縦のつながりが大切。事業名は人権講座だが対象は青年。伝わりやすいタイトルに工夫を。  ○B委員  創作講座「地元を再発見!まち歩き地図づくり」(ひばりが丘)について。保谷駅前公民館の「人権講座」と展開が似ている。継続参加は難しかったと担当者は考察しているが、どのような様子だったのか。  ○公民館長  冊子の講座「人権講座 子どもの権利を考える」の報告は来月の定例会に提出される。「西東京市子ども条例」が出来た。その中で子ども自身が自分たちの人権を考えて意見表明ができる、そういう場を設けることが重要であるとうたわれている。子どもがどのような形で意見表明をしたらよいか、どのように組み立てたらよいかを考えたのがこの講座となる。「人権講座」という堅苦しい名称になっているが「西東京市子ども条例」に重きが置かれている。公民館だよりを見て参加してくれることが望ましいが、公民館にゆかりのある学生に声をかけ、さらにその友達に声をかけたというこ</p>	

とで広がった。ひばりが丘公民館の創作講座は地図づくりということでゆるい感じがするが、やってみると手間がかかる。思ったものとの差異が講座の中にあっただのではないか。

○B委員

「地図づくり」という手法はとてもいいはずなので、ぜひ継続してほしい。人権学習の子どももつながるのではないか。

○C委員

子どもの地図づくりは、小学校3年生の社会科「地域を知ろう」で取り組む。かつて地震発生の際などに役立つよう「危険箇所を調べる」という取り組みを教職員がしたことがある。たとえば「子どもの人権」の学習と「地図づくり」をつなげるならば、「公園が少ない」「水場を作してほしい」など子どもの目線でまち歩きをするなど。取り組みが行われている学校もあるが、公民館でも実践できるとよい。

○D委員

サロンコンサート「ピアノトリオで奏でる映画音楽」（芝久保）について。参加者が多いのはコロナ禍でこのような催しを楽しみにしている人が多いからだと思う。参加者が多いので回数を増やした事も良かった。今後も継続してほしい。

## 2 審議事項

### (1) 令和3年度第7回定例会会議録(案)について(資料2)

●令和3年度第7回定例会会議録(案)について承認。

### (2) 令和3年度第8回定例会会議録(案)について

●令和3年度第8回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し、10日以内をめぐりに修正意見を公民館に送ることとする。

### (3) 令和4年度公民館事業計画(案)について

●事務局より説明。

○E委員

令和4年度公民館主催事業計画の「基本方針別一覧」の取組事業欄に「教育計画」の項目があるが、意味がわかりにくい。「対象別一覧」について。保谷駅前公民館の「子育て世代」欄が空白で、計画された事業がない。保谷駅前公民館は図書館併設で、小さい子どもと一緒に買い物客もいる、子どものサークル活動もあるので、子育て世代も多数公民館を利用している。乳幼児がいる世代への働きかけがあってもよいのではないか。

○事業係主査

「教育計画」の項目には、現在の教育計画で公民館が取り組む事業のうち、令和4年度に重点的に取り組む主要施策を記載してある。保谷駅前公民館は専用の保育室がなく保育付き講座を行っていないため、これまで乳幼児とその保護者を対象としたコンサート等を行ってきた。いただいた意見をふまえて、子どもと保護者対象事業について再検討する。

○F委員

「お父さんの参加を促したい」ということだが、小中学校にあるおやじの会や父親の会で既に活動している地域の父親を巻き込んではどうか。

○D委員

柳沢公民館、ひばりが丘公民館は子ども、小学生を対象にした取り組みが少ないのではないか。ひばりが丘公民館は場所的にもわかりにくいので公民館を広める意味でも取り組んではどうか。

○事業係主査

公民館が行う青少年事業については、平成28年度の事業計画作成の際に、中高生対象事業については児童館で行われていることをふまえ、全館で役割分担を行った。特に、谷戸公民館とひばりが丘公民館は近接しているため、近隣に小学校が2校ある谷戸公民館は子ども対象事業、ひばりが丘公民館は親子対象事業という役割分担を行った。近くに保谷柳沢児童館がある柳沢公民館と駅の近くにある保谷駅前公民館は青年対象事業に取り組むこととした。さらに、今年度から「まちなか先生」（学校出前講座）が始まったことにより、子ども対象の事業数等を見直した。子ども対象事業は子どもたちに公民館を知ってもらう機会となるという観点については、今後、検討させていただきたい。

○A委員

前回「子どもの進路に関する事業は、進学とは違い公民館にはいろいろな人がいろいろなサークルもあるので、どう生きていくのか、自分のキャリアをどう考えるのかという学びができるのではないか」という意見があったので、計画してはどうか。先ほどの「人権講座」も名称や内容変更での継続も考えられる。保育付き講座については「子育て中の女性」「子育て中の人」「子育て世代も参加できる」など、女性対象のみに偏らないということで説明があった。男性、女性、親子等さまざまな性と家族のあり方が昨今考えられ言葉の使い方が難しいが、そこも踏まえて考えてみてほしい。子育て中の人にはコロナ禍でもあり、さまざまな課題がある。キャリア支援も大事だと思う。ライフデザイン講座など働き続ける女性のための講座もあるとよいのでは。実施時間が夜間等になる可能性もあるが、公民館になかなか来られない人が来られるようになる。

○C委員

柳沢公民館の「子育て中の外国人女性のための日本語講座」、保谷駅前公民館の「多文化カフェ」「多文化共生講座」など、外国の方が参加しやすい講座が、外国人の方が多く住む地域の公民館で計画されるとよい。平和についての講座を増やしてほしい。若い人向けの講座もいくつかあるが、どうすれば若い人が公民館に来るかも大事な課題。

○G委員

柳沢公民館に「子育て中の外国人女性のための日本語講座」があるが、一般の講座にも外国の方が参加しやすいよう呼びかけるなどの工夫があるとよい。外国籍の母親は西東京市にも多い。

保育付き講座の事業名がいろいろあるのはなぜか。乳幼児をもつ母親の悩みや子育ての不安は今も変わらない。そこには女性の人権意識、人格意識が裏腹にあるので、人権学習としても乳幼児を持つ母親対象の講座は公民館では欠かせないと思う。

○事業係主査

今年度、柳沢公民館の保育付き講座に外国籍の方から複数申し込みがあったが、日本語でコミュニケーションが可能な方はその講座に参加していただき、コミュニケーションが難しい方には子育て中の外国人女性のための日本語講座を紹介した。ご本人に不便がなければ国籍を問わずどんな講座にも参加できる。

保育付き講座の名称は複数あるが、「子育て中の人のための講座」は母親だけでなく、父親や祖父母も含めた広い意味で子育て中の方を対象とする。「子育て世代も参加できる講座」は保育がつかなければ参加が難しい子育て世代も参加できる一般の講座である。なお、柳沢公民館は、育児期の女性の課題を取り上げることとしたので、名称を「乳幼児をもつ母親のための講座」とした。

○B委員

田無公民館では、ひきこもりを取り上げた事業（現代的課題を考える講座）を継続的に実施し、親のつながりや支援するサークルを組織する取り組みを行ってきた。対策を練るということではなく、そのような問題を浮上させ共有する手法はすばらしいと思う。現在、ヤングケアラーが社会的に大きな問題となってきた。西東京市の中で活動しているグループはあるのか、市で対策を練っているのか、関心が高まってきているので、現代的課題を取り上げる講座では、当事者の子どもたちや周辺の地域の人たちが気付けるようなかたちで、関心を高めたり、運動している団体の情報を共有したりするような仕掛けを意識していただきたい。どこかにつなげる意図で取り上げるとよいと思う。

子育てについては、虐待の連鎖もあり、子育て講座の中でフォローできるとよい。

20代から40代までの勤労世代を対象にする「ライフデザイン講座」（柳沢公民館）について。大学の教員をしていて、学生たちが勝つか負けるか、落ちたら終わりという恐怖感の中で生きていると感じている。彼らは、自己責任という言い方に疑問を持ちながらも、抜け出せないという感情を持っている。失業等、大変な思いをしている青年層も、自分はだめだと思っているのではないかと。若者に浸透している「あきらめムード」をどのようによい方向に展開していくか期待している。

○C委員

おやじの会、父親の会は各学校単位になる。西東京市の地域協力ネットワーク（南部、西部、中部、北東部）と公民館との関係がわからない。公民館が高齢者、ヤングケアラー等地域課題に取り組む時、どこまで対象を開くのか。保谷駅前公民館の避難訓練は高層対象で特別であったが、避難訓練の仕方を防災講座でも取り上げてほしい。

(4) 公民館事業評価表（案）について

●事務局より説明

○A委員

実績指標が大事。「参加しやすい事業として実施した事業」とあるが、何をすればここにはいるのか。基準をどこに置くのか。件数では判断できないところをどう捉えるかが課題。基本方針「地域とともに」欄に「地域課題の学習課題化」とある。見えている地域課題と見えにくい地域課題があるが、見えにくい地域課題をどうつかむのか。見えにくい地域課題をどう認識していくか。

○B委員

「見えにくい課題」を認識するために各館の職員は地域の生活状況のデータを把握し、研究しているのか。住民の活動やそこから捉えられる課題をどれだけ職員が捉えているか、評価項目にあるとよい。地域の現実をみて課題を考えて講座につなげていることが評価される。

○E委員

客観的データが揃っていることでより客観的に評価出来るようになった。ただそこから抜け落ちることをどのように評価表に落とし込んでいくか検討が必要。基本方針の中に「地域とともに」「地域の中につながりを」とあるが、地域協力ネットワークとのつながりや公民館の立ち位置をどこにもっていくか考え、どのように地域と結びつくかというような大きな方針が必要。公民館が独自に地域を学ぶというよりも各地域団体の会議に参画して一緒に課題を考えていくことも必要になってきている。

○公民館長

どのような課題に対してどのように取り組んでいくのかを公民館全体で考えていく必要がある。頂いた意見をもとに更に検討したい。

### 3 報告事項

#### (1) 行政報告

○公民館長

2月3日に行われた令和3年度第3回総合教育会議について報告する。公民館からはオンラインを取り入れた新しい公民館活動について報告した。まん延防止等重点措置の発出に伴い、資料作成時よりオンライン対応講座は、若干増えている。公民館は令和2年3月から5月までの臨時休館を経て、制限付きで再開し、その後も緊急事態宣言の発令に合わせて条件を変えながら運営をしてきた。試行錯誤の中、学びや活動をとめないため、オンラインを取り入れた事業運営に取り組んでいる。コロナ禍において、オンラインの必要性は十分に認識していたが、環境も経験もなく、実施にあたっては整理しなければならない課題がいくつもあった。そのため、令和2年度は二つの講座をオンラインで行い、そのうちの一つでは、職員3人が自宅からオンラインで参加して、環境面や運営面などについて検証を行った。また、ひばりが丘フェスティバルは、コロナ禍で先が見えない中、それでも中止にしたいくないという思いから実行委員会で話し合いを重ね、ビデオ上映の形で開催を実現した。開館30周年を迎えたひばりが丘公民館の歴史や、団体の活動紹介動画は、たくさんの思いが詰まった約1時間の大作である。令和3年度は、検証結果を踏まえて、多くのオンライン講座を実施している。「親子で楽しいベビーヨガ&ストレッチ」(ひばりが丘)は、公民館に来て受講する従来の参加方法のほか、別の日にZOOM参加の回を設けて、参加者は自宅からアクセスして講座に参加した。また、講師によるデモンストレーション動画を作成してYouTubeにアップする予定。これにより、自分の好きな時間に好きな場所で講座を体験することができる。高齢者対象講座「私だけの人生ノートづくり」(保谷駅前)は3回の連続講座で、そのうちの1回に、ゲストティーチャーとして上野千鶴子さんにオンラインで出演していただいた。このように、公民館に来ていただくことが難しい方の参加も可能となり、学びの幅の広がりを実感している。令和4年度は、これまでの経験を踏まえ、オンラインを取り入れた新たな学びを更に進め、より多くの方に、多様な学びの機会を提供したいと考えている。委員からは、オンラインの方法や、苦労したこと、オンラインで参加された場合のアンケート方法などについて質問があった。アンケートはメールでやり取りしている。事前に環境確認や説明の機会を設けるなど、参加者のフォローが必要。また、オンライン講座を実施できる体制、職員だれもがオンラインに対応できるような研修が必要である。

#### (2) 公民館だより編集室報告

- 2月2日編集室会議は中止となり報告事項はなし。

#### (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 2月開催の委員部会は中止となり報告事項なし

#### 4 事務連絡及び情報交換

##### (1) 令和3年度公民館運営審議会委員研修について

- 2月21日(月)午後6時30分からオンライン会議システムを利用して開催。講師は荒井容子委員。

##### (2) 第10回定例会の開催について

日時：令和4年3月16日(水) 午後6時30分 場所：柳沢公民館視聴覚室